

女性活躍推進フォーラム in 東京 第4回

4チームが企画プレゼン

最優秀賞「ウエルカムバックアップ制度」

第4回の「女性活躍推進フォーラム in 東京」(人材育成委員会主催)が1月24日、東京・日本橋の三洋グループ日本橋ビルで開催され、会員企業14社19人が参加した。

今回は今年度の最終回で、4チームが「キャリアプランニング」と「ワーク・ライフ・バランス」のテーマで、これまでのフォーラムを通じて立案した企画を参加者の所属企業上司の前でプレゼンした。

桑野麻衣氏が講演

プレゼン前のセミナーでは講師にANA、デイズニー、ジャパネ



講師を務めた桑野麻衣氏

ットタカタ、再春館製菓などの教育担当をつとめてきた桑野麻衣氏を迎え、「人材育成に求められるコミュニケーション」をテーマに、価値観の異なる部下の指導を行うために必要なスキルなどを学んだ。そのなかで桑野氏は、人の価値観が相対的なものだ実感するためにネガティブな言葉をリフレーミング(枠組みの再構築)してポジティブな言葉に変換するトレーニングを行ったり、相手の話を深く聞く「傾聴」スキルを実践するなどし、いろいろなタイプの相手とコミュニケーションをとる技術の重要性を指摘。講演の締めくくりには「リーダーとは周囲にプラスの影響を与えることができる人。自分の背中を部下は非常によくみている。部下に、あ

のときのあの一言が人生を変えたといわれるように」とし、参加者にエールを送った。

続くグループディスカッションではおよそ2時間にわたって、各グループがプレゼン大会のための最終調整を行った。

プレゼン大会では「グループメンバーがパワーハラスメント防止コンサルタントの資格を取得し、企業に無料研修を実施。6年後の離職率を35・7パーセントまで下げる」(Aグループ)、「女性の昇進意欲向上を目指し、女性活躍を推進するための小冊子を発行する」(Bグループ)、「妊娠や出産などで休職、離職した人が企業に戻ってきやすい環境づくりをすすめるウエルカムバックアップ制度の確立を提案。育休産休に関するDVDを作成する、社内に安心して使える仕組みがある、など啓蒙する」(Cグループ)、「社員のモチベーションアップや他社との友好

な交流を促進させるため大規模なクイズ大会を実施する」(Dグループ)という4つのアイデアが提案され、企業上司をはじめ業界誌、事務局参加者による採点の結果、最優秀賞にCグループが選ばれた。

Cグループの提案は、女性社員の出産時離職の防止などを狙い、社内で規定している各種福利厚生制度の認知度を高める、ということも。妊娠の報告、産休、育休の申請の際など上司に報告した場面の



19人の女性が1年間のフォーラムを受講した

プレゼンでは企画のクイズ大会を実際に行ったチームもあった▶



各チームのプレゼンを聞いた上司が講評



参加者（順不同、敬称略、姓略）

Aチーム「桃太郎プロジェクト」＝渡部友美（アプリイ）、坂梨理沙（東和産業）、中久保安美（日拓ホーム）、萩原奈津枝（NEXUS）、塚原沙英（安田屋）、
Bチーム「女性活躍紹介雑誌」＝福本朋香（オータ）、土屋優夏（サンキュー）、徳井晴純（善都）、石坂由仁子（ニラク）、中川涼子（マルハン）、
Cチーム「産休・育休に関わる動画の作成・公開 WELCOME BACK UP!」＝石橋朋佳（アサヒディード）、日野あかり（オータ）、松本沙也果（日拓ホーム）、小林香月（ピーアークホールディングス）、坂保玲子（安田屋）、
Dチーム「第1回パチンコ業界横断ウルトラクイズ」＝柳澤知香（東和産業）、白戸千裕（平成観光）、酒井英三子（マルハン）、八木橋佳代子（メッセ）

再現映像を盛り込んだ啓蒙動画を制作し、日遊協のホームページなどで公開する。新卒採用時や昇格時研修の際なども視聴させ全社員への浸透もはかる。さらにアンケート実施し効果測定を行い、出産を理由にした退職率の減少を目指している。

人材育成委員会

1月24日
日本橋三洋グループ日本橋ビル
出席委員等12人

来年度事業を検討

候補に会員企業ツアー

同日行われる「女性活躍推進フォーラムin東京」のタイムスケジュールや段取りの確認と来期事業の検討が行われた。

「女性活躍推進フォーラムin東

京」は今期の最終回となり、参加者の上司に対するプレゼン大会が予定されている。委員会ではセツティングの確認、各チームの企画書の内容確認なども行われた。

来期事業については、人材育成フォーラムなど、現在行っている

試打ブースが大盛況「組合まつりin TOKYO」

東京を中心に全国の中小企業組合が集結した「組合まつりin TOKYO」が1月30、31の2日間、東京・有楽町の東京国際フォーラムで開かれた。東京都中小企業団体中央会が主催、東京都、東京商工会議所、全国中小企業団体中央会など9団体が後援し、117団体が参加して中小企業の魅力発信に努めた。

会場は伝統工芸品、くらし、アミューズメント、全国物産など10のカテゴリーに別れていた。アミューズメントのパチンコブースには、都遊協、全日遊連、日工組、東遊商、東商流が、現行遊技機6台、懐かしい手打ち式遊技機6台、ジャンボ・パチンコ1台を出展した。玉が景気よく出て、若い女性のグループや男性客らが入れ替わり立

事業の継続可否や新規事業の立ち上げなどについて意見がだされた。新規事業については大学生を対象とした会員企業の見学ツアー、中堅管理職を対象とした業務効率向上に関する研修会などの案が提出された。

ち替わり座って楽しんでいた。都遊協によると、「今回の出展の狙いは、ファンはもちろん、外国人観光客や未経験者にパチンコの魅力を知ってもらうことだが、外国人が少ないのが残念」という。

パチンコの試打ブースは、席がなかなか空かない

